

	内容別・課題別の 課題分析（知識、技能）	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	・長音や促音、拗音の表記、助詞の使い方を正しく理解して文章の中で活用することに課題がある児童がいる。 ・平仮名や片仮名の音と形との一致に課題がある児童がいる。	・ICTを活用しながら、表記の仕方や使い方などを視覚的に理解できるようにする。また、日々のノート指導を通して、文章を書く経験を重ねていく。 ・ひらがな50音表を音読などで活用して、音と形を一致させる。	
算数	・数の合成や分解に対する感覚が乏しい児童がいる。 ・文章を読み、加法か減法か自分で立式することに課題がある児童がいる。	・ブロックやおはじきなどの半具体物を使って視覚的に理解できるようにしたり、手遊び(ごまだんご、おまんじゅう)等と関連付けたりして、定着を図る。 ・加法のポイント(ぜんぶで、ふえると、あわせて等)、減法のポイント(へると、のこりは、ちがいは等)を文章中から見つけ、おさえさせ、立式の手掛かりとなる子に気付かせる。減法は、大きい数から小さい数を引くという式の数字の順番を、半具体物を使って視覚的に理解できるようにする。	
生活	・植物の観察では、種や葉、花に注目してはいるものの、細部までよく見て観察することに課題がある児童がいる。 ・学校の施設の使い方や生活上必要な習慣や技能の習得に課題がある児童がいる。	・観察する視点を児童が意識できるように、【見たこと・におい・手触り・気持ち】の4つにポイントを絞って児童に提示し、指導する。ICTを活用して、児童の観察カードを互いに見合い、さらに学習内容を深められるようにする。 ・学校の施設の正しい使い方を繰り返し指導し、気を付けて生活している場面を見取って称賛し、意識付けを図る。	
音楽	・節奏を聞いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能に課題がある児童がいる。 ・互いの楽器の音や伴奏を聞くなど、音を合わせて演奏する技能に課題がある。	・節奏をよく聞き、リズム、速度、強弱などに気を付けながら繰り返し演奏させる。視奏では、教師のリズム唱や階名唱を模唱することに十分慣れさせた上で、簡単なリズム譜や楽譜を視奏させる。 ・伴奏に合わせてフレーズごとに交互に演奏したり、旋律とリズム伴奏をそれぞれ演奏した後に合わせたりするなど、繰り返し練習させる。また、様々な楽器を用いた合奏では、自分や友達が担当している楽器の役割を意識し、音を合わせて演奏する楽しさを味わわせる。	
図工	・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れることに課題が見られる。 ・表したいことをもとに工夫して表現することに課題がある児童がいる。	・材料や用具を楽しく使えるような題材を設定する。一度扱った材料や用具でも、繰り返し経験することで十分に慣れるようにする。 ・絵本などを用いて児童の発想力を支援する。そして思い付いたことがすぐにできるような材料や用具をあらかじめ用意しておく。児童が主体的に表し方を工夫できるよう、教師は見守る姿勢をとり、時折声をかけるようにする。	
体育	・自分のイメージ通りに体を動かすことが苦手な児童がいる。 ・体づくり運動などでは、腕支持感覚やバランス感覚に若干の課題がある。	・体のバランスをとったり、まねっこをしたりするなどの楽しい運動遊びを通して、様々な動きを身に付けられるようにする。 ・上手な児童にお手本を見せてもらったり、教員が補助に入ったりして苦手な児童も挑戦しやすいようにする。動物歩きなどを日常的に取り入れ、楽しく腕支持感覚やバランス感覚の経験を積み重ねられるようにする。	